

浅野 敏雄

旭化成 相談役
公益財団法人がん研究会 理事長

2枚の写真

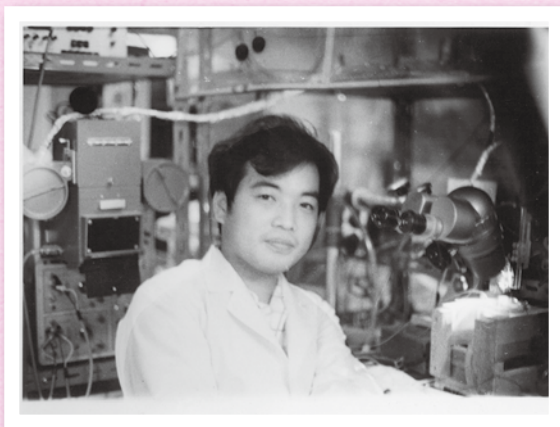
入社したころ、私は新製品を創り大きな工場を建てることを夢見ていました。最初の仕事は若き吉野彰さんの下で高分子の研究（吉野さんがまさかノーベル化学賞受賞者になるとは！）。そんなとき、「医薬を始めることにした。君はそこに行きなさい。場所は延岡だ」と、部長から突然の転勤内示。

延岡では、他社から転職した上司が待っていました。医薬の専門家であるこの方は、薬効を研究する人材が足りないと強く指摘していました。しばらくして、旭化成は私を大学に2年間派遣することを決定しました。

派遣された私に与えられたテーマは心臓に関する研究。1枚目の写真は、細胞の微小電位変化を解析していたときのものです。自分の研究だけでなく必死に勉強し、実験の合間に文献をたくさん読みました。読むだけでは忘れるので、タイプライターを買い帰宅してから文献カードを作りました。文

献を読むのは楽しかったのですが、カードを作るのは時間を要し苦痛でした。今ではネット検索、文献の編集保存などが短時間ででき、夢のようです。大学からの帰任後、長い道のりがありましたが、First in Classの自社新薬を三つも世に出すことができました。当初は大赤字だった事業も、大きな利益を上げるまでに成長しています。

もう1枚は駅伝の写真です。旭化成といえば宗兄弟が有名で、駅伝が根付いていました。駅伝で学んだことは、「^{たすき}襷をつなぐ」です。襷が繋がらないと前の人の仕事が無になります。優勝ランも、それまで走った選手の頑張りのおかげです。成就したときには中心人物が定年ということもありました。自分をわきまえ、襷をつないでいく精神が旭化成の良き経営スタイルになっています。この2枚の写真は、私をヘルスケア領域に導き、私の経営マインドをつくったものです。



細胞の微小電位変化の解析



駅伝